

# アイリス Letter

## 保護者の皆様へ



2026年5月29日発行  
第1号  
広島女学院中学高等学校

### <聖書のことば>

目を上げて、わたしは山々を仰ぐ。  
わたしの助けはどこから来るのか。  
わたしの助けは来る  
天地を造られた主のもとから。

### 旧約聖書・詩編 121 編 1～2 節

日本には古来、「山岳信仰」があり、山に靈気が宿ると信じたり、山そのものをご神体として崇めたりしてきました。山は自然の豊かさの象徴的な存在でもあります。

しかし、詩編の作者が見上げた山は、新緑に満ちた山ではありません。砂漠の民である彼らが目にしたのは、樹木一本も生えていない荒涼とした岩山です。生命を育む豊かさとは無縁の、厳しい自然の世界でした。

それにもかかわらず、彼らは山々を仰ぎました。なぜなら、彼らは目の前の山そのものではなく、その向こうにおられる「目に見えない神」、つまり天地の創造主を見ていたのです。

新約聖書・コリントの信徒への手紙二・4章 18 節には、「わたしたちは見えるものではなく、見えないものに目を注ぎます。見えるものは過ぎ去りますが、見えないものは永遠に存続するからです。」とあります。

もともと、「目に見えない神を信じる」と言われても、納得し難いものです。その点でキリスト教は難しい宗教です。それは日本におけるキリスト教の受容を考えると納得できるものです。

16 世紀のキリスト教の伝来や明治維新の欧米の宣教はさておき、戦後、GHQ の司令官マッカーサーは多くの宣教師を日本に派遣し、聖書を広く配布しました。キリスト教は民主主義社会を形成するに極め役立つと考えたからです。

敗戦後およそ 17 年間で、2,000 万冊もの聖書が流通したと言われていています。東南アジアの国々では聖書の流通数と信者数の増加とは相関関係になっていますが、日本は全く違っており、キリスト教徒の数は総人口の 1% にも満たない少数のままにとどまっています。

一方、キリスト教系の学校は全国に存在し、幼児教育から高等教育まで教育分野に大きく貢献してきました。同時に、音楽や芸術、文学など、日本文化のさまざまな領域に深く影響を与えてきました。信者数は少なくとも、その精神や価値観は社会の中に広く浸透しています。この「信者数の少なさ」と「文化的影響力の大きさ」のギャップは、日本のキリスト教を考える上で、大変興味深いテーマで、多くの研究者が取り組んできました。

キリスト教徒でなくともキリスト教に魅力や知的関心を抱く方は少なくありません。広島女学院の保護者の方々は、本学の建学の精神への信頼のみならず、「信仰のため」というより、「より良く生きるための教育」を求めてキリスト教に期待していると理解しています。

本学のキリスト教教育は、信仰を強いるのではなく、一人ひとりの人生の課題に寄り添いながら、キリスト教の視点から倫理観を培い、生徒が自分自身と向き合い、自らの世界観と人生観を育てる機会となるように組み立てられています。

140 年の歴史を誇る広島女学院のキリスト教教育はこれからも今まで以上に生徒たちを「よき人間」へと育てていきます。

(院長 三谷 高康)



## 校長室より

新緑のまぶしい季節となりました。保護者の皆様には、日頃より本校の教育活動に温かいご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。この4月より、校長に就任いたしました中村紀子です。どうぞよろしく願いいたします。

中学1年生181名を迎え、中高合わせて1175名で新年度が始まりました。さらに高校1年生には、タイとドイツからの留学生2名も加わり、校内には新しい出会いと活気があふれています。

さて、今年度の新たな取り組みとして、始業2日目に高校3年生が中学1年生に校内を案内する時間を設けました。高校3年生たちは、新入生の緊張を少しでも和らげようと、さまざまな話題を交えながら笑顔で案内しており、大変頼もしい姿でした。中高6か年をともに過ごす本校では、このような「縦のつながり」が自然にはぐくまれていきます。新入生にとって高校生は、将来の自分を思い描くことのできる身近なロールモデルです。中学1年生が数年後、同じように新入生を案内する姿を思うと、こうして広島女学院の伝統は受け継がれ、先輩方が大切にしてくられた思いや校風が、生徒たちの中に自然と受け継がれていくのだと感じます。

本校では、聖書に基づくキリスト教精神を土台として日々の教育活動にあたっています。礼拝や授業、学校行事など様々な場面で「一人ひとりが神様に愛される、かけがえのない存在である」というメッセージに、日々触れながら学校生活を送っています。自分が大切にされているという実感の中で、自分らしさに気づき、自分とは異なる周囲の存在も尊いものとして受け止められるようになってほしいと願っています。こうした関係の中で育まれる安心感こそが、自分らしく一歩を歩み出す力につながっていくと思っています。本校が、生徒たちにとって安心して過ごせる居場所であり、「自分らしく成長できる学校」であり続けられるよう努めてまいります。

最後になりますが、学校という場所は、教職員だけで成り立つものではなく、保護者の皆様とともに子供たちを育てていく場所であると改めて感じています。子供たちを取り巻く環境や価値観が大きく変化する今だからこそ、学校と家庭が互いに連携し、同じ方向を向きながら子供たちを支えていくことが、これまで以上に大切になっています。これからも、保護者の皆様とのつながりを大切にしながら、生徒一人ひとりの歩みに寄り添ってまいります。今後とも、本校への教育活動へのご理解とご協力をよろしく願いいたします。

(校長 中村 紀子)



## イースター特別礼拝

キリスト教において、クリスマスと並び最も大切な記念日である「イースター（復活祭）」。それは、私たちの罪の身代わりとして十字架にかかれたイエス・キリストが、死に打ち勝ち、三日目に「復活」されたことを喜び、感謝を捧げる日です。春分と満月の周期に依拠するため毎年日付が異なる移動祝祭日ですが、今年は4月5日（日）がその日にあたりました。



これを受け、本校では4月18日（土）に松浦祐介牧師（日本キリスト教団広島牛田教会・本校聖書科講師）をお迎えし、イースター特別礼拝を執り行いました。

松浦先生は、マタイによる福音書第28章1～10節、16～20節より「復活と共に生きる喜び」と題して、御言葉（みことば）を取り次いでくださいました。「復活」という人知を超えた出来事が、一体何を意味し、誰のために成されたのか。先生はご自身の人生の歩みを重ね合わせながら、入学したばかりの新入生にも分かりやすい、温かみのある言葉で語りかけてくださいました。

奨励の中で特に深く迫ってきたのは、復活の主を目の当たりにしながらも、なお疑いを拭いきれなかった弟子たちの「人間の弱さ」への言及でした。しかしイエス・キリストは、その弱き者たちを拒むことなく、むしろ彼らに大切な「使命（ミッション）」を託されました。

松浦先生はこの「復活」を通し、私たちが日々の弱さの中でいかに復活の喜びと共に生きるべきかを、明快に説き明かされました。かつて弟子たちが復活のイエス・キリストとの再会によって変えられ、使命への道を喜びのうちに歩み出したように、私たちもまた、主の復活が与えてくれる確かな希望と勇気を胸に、この新年度の一步を踏み出してまいりたいと思います。

（宗教教育委員会）

## 生徒支援部より

### ① 中1学年集会 講演「中高生の育ちを支える家庭の役割」について

4月14日（火）に、大阪総合教育支援研究所の原田孝先生をお招きし、新中1保護者対象の講演会『中高生の育ちを支える家庭の役割』を実施いたしました。家庭の役割として、

- ・子どものエネルギーが切れていないかを見守ること
- ・大人自身が見本となる存在であること
- ・少しずつ親が手を離していくこと

（成長には適度なストレスも必要なので子どもを守りすぎない）

などの大切さについてお話がありました。

講演後半では、中学教頭より「保護者と学校が協力することの重要性」について、生徒支援部より「中学生によくあるトラブル事例や、その際の家庭の役割」についてもお

伝えいたしました。

## ② ネットリテラシー講演会について

5月2日(土)には、中学・高校別に、生徒支援部よりネットリテラシー講演会を実施しました。アンケート結果を踏まえながら、スマートフォンの日常的な使い方や学習との関係、国際的なSNS規制の動向、生成AIの台頭などについて講演いたしました。

また、講演の最後には「5月チャレンジ」として、自分自身のネットとの付き合い方を振り返り、改善したい行動を各自で考えて書き込む活動も行いました。今回の取り組みが、自らの生活を見直し、よりよい習慣づくりにつながっていくことを願っています。

なお、7月下旬には保護者向け講演動画の配信も予定しております。詳細につきましては、改めてご案内いたします。

## ③ 5月13日(水) 学級懇談会について

ネットリテラシー講演の資料を配付しております。

また、「SNSに関する学校方針」(※中1・高1は4月に配付済み)につきましても、全学年で配付しておりますので、ご確認をお願いいたします。

## ④ 最近の動向

新年度が始まり、スマートフォンのルール違反(歩きスマホ、家庭連絡以外での使用など)、自転車の乗り方、寄り道などについて指導する場面があります。「少くならぬなら」、「自分くらいは」、「みんなもやっているだろう」という意識ではなく、たとえ小さなことでも、自分自身をコントロールする姿勢を身につけてほしいと願っています。

ご家庭におかれましても、お声かけやご指導へのご協力をよろしく願いいたします。

(生徒支援部)

## 海外研修

2025年度春休みに実施された海外研修について、ご紹介します。本校Webサイト「今日の女学院」でもプログラムの詳細を参加生徒たちがレポートしていますので、合わせてご覧ください。

### (1) マウントユニオン大学研修

参加生徒：高校1年生9名、中学3年生4名

日程：3月18日～3月30日

訪問先：アライアンス(オハイオ州)、シカゴ(イリノイ州)

卒業生の村上芳野さんが繋いでくれたご縁から始まったこの研修も、今年で15年目を迎えました。緑豊かなマウントユニオン大学での毎日は、生徒たちにとって驚きと発見に満ちた異文化体験の連続でした。

「多文化教育」や「平和構築」などの授業を受講し、大学生とのディスカッションで

は次々に意見が飛び出す熱い雰囲気、最初は圧倒されっぱなしの生徒たちでしたが、日本で何度も練習を重ねた「広島と平和」のプレゼンテーションでは、真剣に聞いてくれる現地の方々の姿や、次々と手が上がる質疑応答に、緊張しながらも大きな手応えと感動を得たようです。さらに、食料配布のボランティアにも参加し、コミュニティが人々を支えている仕組みも体感することができました。

初めてのホームステイでは、暮らしや食事の違いに戸惑い、言葉の壁も感じました。それでも、はじめはジェスチャー頼りだった会話が、日が経つごとに「だんだん英語が口から出てくる！」という嬉しい変化に変わっていきました。

「完璧じゃなくても伝わるんだ」「自分に自信が持てた」—そんな風に笑顔で振り返る生徒たちは、この挑戦を通して本当にたくましく成長しました。

素晴らしい学びの機会を支えてくださった保護者の皆様、そして関係者の皆様に、心から感謝申し上げます。ありがとうございました。



## (2) 韓国研修

参加生徒：高校1年生 7名、中学2年生 6名

日程：3月23日～3月27日

訪問先：ソウル市内、近郊

本校の韓国研修は、チャン牧師をはじめとする善仁（ソニン）中央教会の全面的なサポートのもと、多岐にわたるプログラムを組み込んだ、唯一無二の研修です。

建国大学師範大学日本語教育学部、建国大学師範大学附属高校、保聖（ボソン）女子中学校との交流会では、日韓の歴史観の違いだけでなく、若い世代がどのように平和を構築していくかについて、真剣に議論を交わしました。また、ヤンファジン外国人宣教師墓地やマンリヒョン教会を訪ね、異国の地で教育や福祉活動に携わった日本人宣教師についても学びました。

何よりも私たちの心を動かしたのは、ソニン中央教会の水曜礼拝です。韓国語で讃美歌を披露した後、金先生は礼拝のメッセージの中で、女学院の歴史と韓国研修の意義について語りました。礼拝が終わり、教会の信者のみなさんが私たち一人ひとりに温かい声を掛けてくださったときには、自然と涙があふれてきました。言語や歴史、政治的な壁を超え、共に未来を創り出すことができると確信した瞬間でした。2年前、この韓国研修に参加したことを機に韓国外国語大学に進学した卒業生が、この水曜礼拝に参加し、韓国で学ぶことがいかに自分の成長につながっているかを語ってくれました。今回の研修参加者からも、韓国の大学に進学する人が出てくるかもしれません。



その他、景福宮や弘大、明洞、ソウル（南山）タワーといった有名な観光スポットに加え、韓国大統領府が置かれる青瓦台をバスから見学しました。さらには、北村韓屋村や通人市場、清溪川、益善洞韓屋通り、漢江などにも足を運び、濃密な5日間を終えることができました。今年度の研修は「共に知る、共に行動する」をテーマに、日韓の歴史を超え、「人と人」のつながりを体感する充実した時となりました。研修をサポートしてくださった方々、本当にありがとうございました。

### （3）カンボジア研修

参加生徒：高校1年生 16名

日程：3月20日～3月28日

訪問先：プノンペン、シェムリアップ

プノンペンではオーストラリアン・インターナショナルスクールやひろしまハウスさんにて、たくさん子どもたちや中高生と交流を行い、現地の文化を学ぶと同時に、私たちの学校や広島についても伝えることができました。ホストファミリーとのかけがえのない時間は、生徒たちにとって忘れることのできない思い出です。シェムリアップではアンコール遺跡にも足を運び、カンボジア王朝の築いてきた歴史を実際に見て学ぶことができました。アンコールワットでの美しい朝日鑑賞も素晴らしい経験となりました。カンボジアは、ポル・ポト政権時代に多くの国民が虐殺された悲しい歴史



を持つ国でもあります。訪問した博物館でその事実に向き合い、カンボジアがたどってきた悲しみを共有する大切な機会となりました。

多くの人々の優しさに触れ、日本とは違う文化の中に身を置いた1週間の経験が、生徒の皆さんのこれからの人生において大切な糧となっていくことを願います。今回の研修を様々な形で支えてくださった皆さまに心から感謝いたします。

### （4）GI ハワイ研修

参加生徒：高校2年生（Global Issues 選択生） 17名

日程：3月28日～4月2日

訪問先：ホノルル（ハワイ州）

GIの集大成の一つともいえるハワイ研修ですが、本年度もパールハーバー国立記念公園やハワイ大学を訪問し、実り多き研修となりました。

以下、GI生の感想の一部を抜粋いたします。

学校で真珠湾攻撃について学んではいましたが、実際に現場を訪れ、ガイドの方の解説を直接聞くことで、教科書だけでは決して得られないような、歴史の重みと現実

感を肌で感じることができました。特に、質疑応答や映像、模型、そしてアリゾナ記念館を通じた学びは、私たち全員にとって非常に貴重な経験となりました。

今回の訪問を通じて、歴史を学び、それを次世代に伝えていくことの重要性を改めて実感しました。学んだことを今後の学習に活かしていきたいと考えています。

様々な交流を通じて、多様な視点に触れることができ、英語を使う貴重な経験を得ることができました。事前にハワイでの留学について調べてはいましたが、この旅は新たな発見に満ちたものでした。海外の大学を訪れるのは初めてでしたが、ハワイの歴史がハワイ大学の建築や精神と深く結びついていることに強く感銘を受けました。この経験から、大学とは単なる学問の場ではなく、文化の架け橋となる場所であることに気づかされました。



#### (5) Critical Issues Forum(CIF)

参加生徒:高校1年生、2年生(各1名)

日程:3月25日～3月31日

訪問先:アメリカ(カリフォルニア州)

3月27・28日、Critical Issues Forum がカリフォルニア州モントレイで開催されました。このフォーラムにはアメリカ、日本、ノルウェー、インドなどの計20校の高校が参加し、「Facing the Global Nuclear Threat : Youth Engagement for a Safer World」をテーマとして、プレゼンテーションやディスカッションを行いました。残念ながらイランでの紛争による渡航制限のためパキスタン代表団が急遽参加できなくなり、オンラインでの参加となりました。

本校からは、平和教育こそが平和な世界を作ることに大きな役割を果たしていること。また、高校生が実践できる平和活動があることを知ってもらいたいという思いから、広島女学院でのGIが行っている世界各地の被爆者との交流や第五福竜丸の見学などの活動や署名実行委員会での署名活動や碑めぐりなどについて紹介しました。

他校のプレゼンテーションでは、核リスク、軍縮、および関連する地球規模の課題について綿密な調査研究を発表し、複雑な問題に対する優れた分析力と創造的なアプローチが示されました。各校の発表はそれぞれ独自の視点を提供し、大量破壊兵器におけるAIのおよぼす影響から、核軍縮の文化的側面、軍縮推進における芸術の役割、核抑止力の脆弱性、そして各国固有の核問題まで、幅広いトピックを取り上げられていました。



(グローバル教育推進部)

## 高1オリエンテーション

4月23日～24日に行われたオリエンテーション合宿は、生徒たちにとって大変実りある時間となりました。特に、自らの思いを語り合うプログラムでは、互いの言葉に真剣に耳を傾け、涙しながら深く共感し合う姿が見られ、心を開いて仲間を受け入れる温かい空間が生まれました。また、ご家族へ向けた手紙を綴る時間では、自分自身やこれまでの歩みについて静かに向き合い、保護者への感謝と同時に、これからの進路について考えるきっかけとなる時間を過ごすことができました。

この合宿で結ばれた確かな絆を大切にしながら、有意義な高校生活をおくってもらいたいと思います。

(高1学年会)

## 中1オリエンテーション

4月23日、24日にオリエンテーションを実施しました。生徒たちも楽しみにしていた行事でしたが、あいにく雨の予報となりました。「せっかくなら学校を飛び出して活動したい」という思いから、急きょ雨天でも活動できる場所を探し、予定を変更して実施しました。

1日目は雨が降り、肌寒い一日となりましたが、尾道ふれあいの里までの道中から、生徒たちの楽しそうな声があふれていました。体育館では、同級生インタビューや生徒企画の借り人競争などを行いました。これまであまり話したことのなかった人とも、インタビューを通して交流を深めることができましたようです。

2日目は晴天に恵まれ、ゲーンズ先生のお墓の前で祈りの時間を持ちました。学校へ戻った後は、前日のインタビューでのやりとりをもとに「自分を語る」の原稿を書き、クラス全員の前で発表しました。お互いの意外な一面や考え方に触れながら、自分自身についても心を開いて伝えていく、大切な時間となりました。

この2日間を通して、生徒たちの緊張も少しずつほぐれ、新しい仲間とのつながりが深まった様子が見られました。急な場所やスケジュールの変更にもかかわらず、ご理解とご協力をいただき、ありがとうございました。

(中1学年会)

## 《中2》遠足

中2では春の遠足で例年、備北丘陵公園（庄原市）に行き、春の色とりどりの花を愛で、屋外で遊ぶひと時を持っています。しかし、今年は晴天続きの4月下旬に、ピンポイントで遠足の日が雨予報。野外での活動がほぼできないことが見込まれたため、急きょ行き先を変更しました。選ばれし地は三次市の「君田いちごハウス」です。





ハウス育ちの色鮮やかなイチゴを白い練乳につけて食べたり、4種類のイチゴを食べ比べたり、何個食べたか比べたり…。制限時間ギリギリまでねばって、おいしそうにほおぼる姿がイチゴに負けず劣らずかわいい中2生でした。

バス車内でもクラスごとに楽しい時間となったようです。映画を見たり、ゲームをしたりなど、HR 委員さんが企画してくれたレクで、行き帰りも大いに盛り上がりました。

(中2学年会)

### 《中3》遠足 (校内 代替えプログラム)

今年度、中3は10月に「チャレンジ登山」で、中国地方の最高峰である大山に登ります。その準備も兼ねて、宮島の弥山登山を行う予定でした。しかし、2週間前から雨予報。神にも祈る思いでしたが、残念ながら雨となってしまい、学校で代替えプログラムを実施しました。まず、ゲームスホールで登山に関する知識をクイズ形式で習得していきました。出題者は、Mr.エンターテイナーの常本先生。大山に関する基本問題から登山の専門的知識まで、合計20問にチャレンジしました。第二部は、体育館でクラス対抗の「体力づくり」ゲーム。担当は体育館の総支配人



俵先生です。新体操部の「備



品」をフル活用した競技を、全部で4種目行いました。最終種目までどのクラスにも優勝の可能性がある、大接戦。その戦いを制し、クイズの正解率も合わせて総合優勝を勝ち取ったのは2組！おめでとうございます。

弥山の展望台から瀬戸内海の絶景を臨むことはできませんでしたが、クラスの仲間と親睦を深めながら、汗を流した「遠足代替えプログラム」でした。10月の「チャレンジ登山」に向け、学年全体でさまざまなチャレンジをしていく予定です。

(中3学年会)

### 《高2》遠足

高校2年生は、遠足で「島根県立しまね海洋館アクアス」へ行ってきました。往路のバスの車内では、映画鑑賞やビンゴ大会が行われ、移動中からクラスの親睦を深めることができました。到着後は、色鮮やかな熱帯魚や可愛らしいペンギンを見学したほか、小さな海の生き物たちと実際に触れ合う体験を楽しみました。あいにくの雨模様

となり、予定していた海岸への散策は叶いませんでしたが、館内で友人たちと賑やかに弁当を食べたり、お土産を選んだり、終始笑顔の絶えない時間を過ごしました。

新クラスになって間もない行事でしたが、新しい友人もでき、心身ともにリフレッシュできたようです。これからの学校生活も充実させていってほしいと思います。

(高2学年会)

### 《高3》遠足

今年度、高3はみろくの里と尾道散策へ行きました。

雨の予報で遊園地での活動が制限されることが予想されたため、急遽午後から尾道市内を散策することになりました。当日は予報通り、本降りの雨でしたが、生徒たちは雨にも負けず、合羽を着てアトラクションを楽しみました。尾道では市内を散策し、カフェに入ったり、お土産を買ったり、御朱印を集めたりと、思い思いの時間を過ごしました。4月から背負っていた“高3”という重荷を少し下ろしたひと時となりました。



(高3学年会)

### PTA総会・学年集会・学級懇談会

2026年度のPTA総会が5月13日(水)の午後に行われました。その後には中1～高2は学級懇談会、高3は学年集会も行われました。

総会では、昨年度の事業・決算報告があり、続いて新年度の役員選出、事業・予算案が承認されました。本校のさまざまな活動は、PTAの方々に支えられていることを改めて実感いたしました。

昨年度の役員の皆様におかれましては、お忙しい中献身的に活動いただき、ありがとうございました。また今年度、役員を引き受けてくださった皆様、一年間どうぞよろしくお願いたします。

(中学教頭)

### 生徒会春の公演

#### ①中高吹奏楽部 第39回定期演奏会

4月12日(日)、ゲンスホールにて第39回定期演奏会を開催いたしました。第1部は、女学院吹奏楽部のオープニングの定番「鷺の舞うところ」で華やかに開幕。夏のコンクールの課題曲や、中学生・高校生に分かれての演奏など、計6曲を披露しました。第2部は恒例の「Join メドレー ～世代を超えたヒットソ



グメドレー〜」でスタート。高3の部員たちが中心となって吹奏楽部で鍛え上げたキレのあるダンスを踊ってくれました。2曲目の「Stool Pigeon」では、打楽器の精鋭4人が学校の机を使った驚きのパフォーマンスを披露。3曲目の「想ひ麗し浄瑠璃姫の涙」では会場がしっとりとした感動の渦に包まれ、最後の『君の名は。』コレクション」では、6年間で磨き上げた高3一人ひとりの美しい音色がホールに響き渡りました。アンコールはお馴染みの「宝島」。300人以上のお客様に見守られ、高3の5人との最後のステージは華々しく幕を閉じました。

吹奏楽部を日頃から支え、応援してくださっている保護者の皆様、いつも本当にありがとうございます。今後ともどうぞよろしく願いいたします。

(吹奏楽部顧問)

## ②高校ダンス部

4月14日(火)にダンス部春の公演を行いました。本校のダンス部は、創作ダンスに取り組むことを大切にしており、生徒自身が振付や構成を考えたオリジナル作品にも挑戦しました。また、観客の皆さまも楽しんでいただけるよう、流行りの曲や振付を取り入れ、会場全体が盛り上がるステージを目指しました。

限られた時間の中で、動きや立ち位置、照明のタイミングなどを何度も確認しながら練習を重ね、ステージに立つダンサーだけでなく、それを支えるスタッフも含め、全員で一つの作品を創りました。コーチにご指導いただいた作品では、細やかな表現や迫力ある動きを学び、本番ではそれぞれが練習の成果を発揮し、表現する楽しさや達成感を味わうことができました。

今後も、踊る楽しさを大切にしながら、観てくださる方の心に残る表現を目指して活動してまいります。引き続き、温かいご声援をよろしく願いいたします。

(高校ダンス部顧問)

## ③高校演劇部

4月18日(土)に恩田陸原作、成井豊・真柴あずき脚本「光の帝国」を上演しました。登場人物の葛藤や強い思いの効果的な演じ方、場面転換や見せ場をどのように演出するか、部員全員で相談しながら作劇をしました。

高3は本公演で引退となります。公演を応援してくださった方々、ご来場くださった方々皆様に感謝申し上げます。

(高校演劇部顧問)

## ④高校音楽部

4月19日(日)に第42回高校音楽部演奏会を行いました。オープニングの「校歌」からはじまり、第一部「THE☆合唱曲のステージ」、第二部「THE☆J-POPのステージ」、中学合唱部と高校音楽部の合同ステージ、第三部「宗教曲のステージ」、そして最後に「宝島」「主イエスは我が羊飼ひ」という構成でした。

J-POPのステージでは小道具や振り付けも準備し、昨年から交流を温めてきた安田女子高校合唱部さんをお迎えして、一緒に歌いたかった「アイデア」を演奏しまし

た。全24曲もありましたが、昨年度の3学期から練習を始めた高1の新入生も、先輩の助けを借りて堂々と歌い切りました。卒業生の方々もたくさん応援に駆けつけてくださり、一緒にステージで「宝島」「主イエスは我が羊飼ひ」を歌ってくださいました。



顧問が増えたり、コーチに星野晴夫先生をお迎えしたりと体制も少し変わりましたが、受け継がれてきたものを大切にしながら、今の音楽部の最高の演奏ができたのではないかと思います。

演奏会を行うにあたり、アナウンス（高校放送部）や照明（高校演劇部）、受付（中学合唱部）など、多くの方にお手伝いいただきました。たくさんのご来場、ありがとうございました。

（高校音楽部顧問）

## ⑤中学演劇部

4月21日(火)に「今日で終わり」(マリー 作)を上演しました。

高3の夏休みが終わり、9月から本格的な受験生活に入るつもりだった主人公の千夏。しかし、カレンダーをめくると「8月32日」だった。姉の誘いで遊び暮らし、とうとう「8月60日」になってしまう。終わらせたくない姉との日々に、ついに終わりの時が来てしまう…

最後に衝撃の事実が判明し、心の揺れ動くさまを表現する難しい演技をしないとイケないお芝居でした。音響・照明がお芝居に与える影響は大きく、スタッフも緊張しながら一生懸命務めてくれました。

コーチの厳しくも暖かい指導で、部員一人一人が本当に大きく成長したと思います。

次の文化祭公演では、新入部員と共に、さらに成長した姿をお見せできるよう、これから部員・教員一同頑張りたいと思います。これからも応援よろしく願いいたします。

（中学演劇部顧問）

## ⑥高校オーケストラ同好会

4月25日(土)、ゲーンズホールで春の公演をおこないました。

組曲「展覧会の絵」よりプロムナード、アイネクライネ・ナハトムジーク第一楽章 Allegro などのクラシック曲から、ルパン三世のテーマ、パイレーツオブカリビ안의テーマなどのポップス曲まで幅広いジャンルの曲を演奏しました。中盤ではパートごとの曲



も取り入れました。ビオラパートは3人で「ハナミズキ」を二重奏で演奏し、チェロパートはコーチの先生と一緒に「オペラ座の怪人」を四重奏で演奏しました。ヴァイオリンパートは三重奏で森山直太朗の「さくら」を、星野晴夫先生のピアノ伴奏と共に演奏しました。

最後のホルベルク組曲より第1曲「前奏曲」までの全10曲は、これまでの練習の成果を存分に発揮できた良い演奏になったと思います。共に活動してきた高3生16人、高2生5人、総勢21人で演奏するのは今回が最後でした。

5月からは高1生8人を迎え、2026年度の活動を始めています。ほとんどの生徒が高校入学後初めて弦楽器を手にするため、肩こりや筋肉痛に悩まされながらも放課後毎日地道に基礎練習に励んでいます。文化祭やメサイアに向けて、これからも部員一同、精進してまいります。

(オーケストラ同好会顧問)

### ⑦中高マンドリン部 第46回定期演奏会

4月26日(日)にマンドリン部では第46回定期演奏会を開催しました。

第1部は、「序曲『小英雄』」、「奇想的間奏曲」、「劇的序曲『幻の岩礁』」を全員で演奏し、第2部は高3の8名によるアンサンブルでした。お互いに顔を見合わせ、時には笑顔で合図をしながら演奏する8名の演奏からは、とてもやさしく居心地の良い音楽が流れており、第1部とはまた違ったマンドリン演奏の魅力を感じていただけたと思います。第3部では、「シンフォニア」、「組曲『ナポリの風景』」を第1部と同様、部員全員で演奏しました。5年間共に音楽を作ってきた仲間を大切にしつつ、後輩へのフォローも欠かさない、高3のみなさん。そんな高3生を中心に昨年8月から、この定期演奏会に向けて一生懸命練習を重ねてきました。今回の演奏会ではこれまでの練習の成果を十分に発揮し、堂々と演奏する部員の姿を皆様にお見せすることができたのではないかと思います。



この演奏会にご来場くださった皆様、支えてくださった皆様に、心から感謝申し上げます。次は8月の全国高等学校ギター・マンドリン音楽コンクールに向けて精一杯頑張りますので、今後ともご支援のほどよろしく願いいたします。

(マンドリン部顧問)

## 保健室だより（1）

これから高温多湿の夏を迎えます。6月は体が暑さに慣れていないため、熱中症にかかるリスクが高まります。熱中症を防ぐには、今のうちに運動や入浴などで汗をかき、体を暑さに慣らしていきましょう（暑熱順化）。また、午前500ml、午後500ml程度を目安にこまめな水分補給をこころがけてください。十分な睡眠、1日3食栄養バランスのとれた食事にて体調を整えておくことも大切です。

6月から制服が夏服へと衣替えします。暑い日には教室の冷房も稼働します。外の暑さと教室の涼しさとで体温調節が難しくなってきます。カーディガンを用意して、すぐに体温調節ができるようにしておきましょう。

6月4日(木)に第2次スクリーニング（眼科・耳鼻科・歯科）があります。自分の健康状態を知る貴重な機会となります。疾病や異常の疑いがあれば、スクリーニング後「結果のお知らせ」をお渡しします。必要があれば受診していただきますようお願いいたします。



この時期、4月から張りつめて頑張ってきた心身に疲れが出やすい頃です。体は正直です。症状が出た時は「休め」のサインでもあります。ゆっくり休養をとり、必要があれば受診をして、自分自身の心と体をいたわってあげてください。

（保健室）

## 心の健康（1）

新入生や学年が進んだ人達を取り巻く環境は、これまでとは変わります。新しい人間関係に神経を使って学校生活に適応しようと一生懸命に努力した、「ストレス」の多い2か月が過ぎました。ほどよいストレスは生活の励みになりますが、強過ぎるストレスは心身の症状を引き起こします。

6月は中間テストも終わり、環境に少し慣れてきて緊張が解けはじめる頃です。ストレスが疲れとなってジワッと出てきます。心の疲れと身体の疲れが入り交じって区別がつかず、よく分からないままに意欲が低下したり、学校を休みたくなったりします。

あまり焦らないで、この機会に、心が落ち着き十分に休息できる自分流のやり方を見つけ出しておきましょう。また、保護者も子どもが息切れしないよう十分に気をつけてあげてほしいものです。



（カウンセラー）

## 保護者対象部活説明会

今年度も中学校の以下部活動において保護者を対象とした説明会を開催します。ぜひご出席ください。別途連絡がある場合は、後日各部顧問から生徒を通じてお知らせいたします。

部活動	日時	場所
YWCA 部	6月8日(月) 16:30~17:30	中学校舎 3階講義室と 1-1 教室
バスケットボール部	6月13日(土) 13:00~	2-6 教室と体育館 2階
合唱部	6月13日(土) 13:30~	音楽室 2 (アイリスセンター 2階)
ソフトテニス部	6月13日(土) 13:30~	高校グラウンドテニスコートおよび教室(未定)
マンドリン部	6月13日(土) 14:00~	セミナー 3 教室 (高校校舎 2階)
卓球部	6月13日(土) 14:00~	第 1 AV 教室 (中学校舎 2階)
剣道部	6月18日(木) 12:30~	剣道場 (体育館 1階)
吹奏楽部	6月20日(土) 14:00~15:30	201 教室 (高校校舎 2階)
演劇部	6月22日(月) 16:40~17:30	セミナー 3 教室 (高校校舎 2階)
バレーボール部	6月20日(土) 15:30~	高校会議室と体育館 2階
新体操部	7月後半 演技発表会と合わせて行います	体育館 2階

(中学生徒会顧問)



## 今月の聖句

わたしたちはまた、神と共に働く者として、あなたがたに勤める。神の恵みをいたずらに受けてはならない。神はこう言われる、「わたしは、恵みの時にあなたの願いを聞き入れ、救の日にあなたを助けた」。見よ、今は恵みの時、見よ、今は救の日である。

(コリントの信徒への手紙二 6章 1～2節 口語訳)

本校は 181 名の新入生を迎え、2026 年度の新学期を始動いたしました。

新学期に先立ち、教職員を対象とした「宗教教育研修会」が開催されました。キリスト教に基づく女子教育を建学の精神に掲げ、創立 140 周年という記念すべき節目を迎える今年度の歩みの起点として、本学の学院聖句「我らは神と共に働く者なり」を土台に据え、上記の御言葉（みことば）を深く味わう研修のひとときを持ちました。

創立から今日に至るまで、本校が歩んできた道のりには、幾多の試練や苦難の時期もありました。しかし、どのような状況下にあっても絶えることなく注がれ、歌い続けられてきた一つがゲーンズ先生愛称讃美歌 294 番にも記されている「神のみ恵み」でした。その「神のみ恵み」とは、今、神と共に働く者として女学院という学び舎に集められた「女学院の娘たち」一人ひとりの姿にほかなりません。私たちは、そうした生徒たちをかけがえのない「希望」として共に歩んでまいります。

昨日や明日ではなく、まさに「今」こそが「神のみ恵み」の時であることを、生徒一人ひとりの学びと歩みを通して分かち合いながら、さらなる 140 年の歩みも神様のみ言葉に立ち、「希望」を見出す学び舎であり続けたいと願っております。

(聖書科 K)